巻頭言

外国語教育研究センター准教授　シュロスブリー 美樹

「大学教育研究フォーラム」本号の特集では、「今、ロシアを学ぶ」というテーマが取り上げられている。このタイトルを目にして、複雑な感情を抱いている方々もおそらくおられるだろう。この二年間ロシアによるウクライナ侵攻の様子をずっとニュースで見て心痛めてきた私たちは、なかなか穏やかな感情で「今、ロシアを学ぶ」という気持ちになることが難しいかもしれない。まだ侵攻は現在進行中であるし、日本政府は G7 をはじめとする国際社会と連携しつつロシアに対して厳しい対応をとることを表明していることからも、なぜ今、ロシアを学ぶのだろう？と純粋に疑問を持たれる方もいるだろう。

今回この巻頭言を書かせていただくことになり、政治や社会に疎い私ではあるが、その答えを探してみた。「今」という言葉が重要なのかもしれない。この二年ほどの間に国際情勢が変容してきていると感じることが多いが、その理由もよく分からないままに、目の前に見えることだけを見て理解を急いでしまっているのかもしれない。後になって歴史を振り返った時、私たちは重要な局面に立っていたにもかかわらず、深く知ることを拒否してしまった「今」を後悔するかもしれない。だから今こそ立ち止まって、ロシアを学ぶ態度が必要だということなのかもしれない。想像の域を出ないが、混沌とした世界でさまざまな問題の解決の糸口を見つけるには、背景にある社会や文化、そこに住む人たちのことをまず理解しないと、一歩も前に進めないのかもしれない。答えを一人一人が考えてこそこのテーマに意味があると思われ、もっと考えること、もっと知ろうとする態度を持つことを促す、重要なテーマだと思われる。

本号ではまた、「外国語による総合系科目（F 科目）の成果と課題」に焦点を当てたシンポジウムの筆録を収めている。グローバル化が進む社会では、幅広い知識を持ち、柔軟で多角的な視点から、英語等の外国語を使って理解・発信をしていく能力が求められる。総合系科目（F 科目）は英語等の外国語を使って異なる専門領域を横断する科目であるから、今まさに求められている科目群と言えよう。本号ではその他にも、多様な授業の実践について、事例報告、授業探訪、エッセーという形で掲載されていて、光る授業の裏にはいったいどのような工夫や思いがあるのか、大変興味深い。目次を見るだけでも、多様な授業を数多く提供する全学共通カリキュラム運営センターならではの、盛りだくさんな内容となっている。